

タイトル	死ぬかもしれないと思ったら
ポーランド語のタイトル	Dzień, w którym myślałam, że umrę
テーマ *	c
名前	ユリア ドロジェル
ポーランド語の名前	Julia Droździel
学校名 *2	ワルシャワ大学
学年	4年生
日本滞在歴	なし

* a. 異文化理解 b. 現代の諸問題 c. 私の大切なもの d. 私からの未来へのメッセージから選択

皆さんは「今日、自分は死ぬかもしれない」と思ったことがありますか。実は私はあるんです。

高校生の時、私はとても不健康な生活をしていました。運動もせず、毎日ファストフードを食べ、カフェインたっぷりの栄養ドリンクを飲みまくっていました。

その日も学校に行き、いつも通り栄養ドリンクを飲み、普通に授業に出ていました。しかし、だんだんと気分が悪くなっていったのです。はじめは胸が痛くなりました。でも、これはよくあることだから、大して心配しませんでした。ところが次に、左手がしびれてきました。ここで初めて、少し怖くなりました。そして次の瞬間、血が凍るほどの恐怖を感じました。なぜなら、胸の痛みと手足のしびれは心臓発作の前触れだと気づいたからです。でもどうして、、、？ ああ、そうか、それならすべて辻褃があう。私は、栄養ドリンクを飲みすぎて、心臓発作を起こしたんだ！

すぐに先生に知らせ、救急車をじっと待っている間、頭にはグルグルと百も二百も考えが渦巻きました。もう終わりなのかな。最後に一目、家族に会いたいな。親は怒るかな。泣くかな。私は本当に恐怖を感じました。

そしてその瞬間、気づいたのです。実は、私はまだ、死にたくなかったんだと。ふりかえれば、私の人生はつまらないものでした。毎日、何となく学校へ行き、何となく帰ってゲームをするだけ。すると突然、強い後悔の念がわいてきました。どうして今まで何も意味のある事をやらなかったんだろう。どうして毎日ビデオゲームをやって、それでオッケーだと思ってたんだろう。どうしてずっとハンバーガーとポテトばかり食べてたんだろう。ここで終わったら、一体人は、私の何を覚えてくれるの？何もないなんて絶対いやだ！と思いました。今この瞬間に至るまで、そんな風に考えたことすらありませんでした。

やがて救急車が到着しました。私はようやく緊張が緩み、心にのしかかっていた重りがちょっと軽くなりました。救急隊員が素早く調べてくれた結果、心臓発作ではないことがわかりました。私はホッとして、体から力が抜けました。

皆さん、私はその後、どうなったと思いますか？はい、もちろん、その日から、栄養ドリンクを飲むのを止めました。健康にいい食事をし、運動も始め、ゲームの代わりに絵を描くことにしました。今でも時々この経験を思い出して、「今日死んだら、どうなる？」と自分の生活を見つめ直し、後悔する点があれば、すぐやり直しています。人生は短いので、意義のあるものにすることが大切です。

皆さん。皆さんも、「今日死んだら、どうなる？」と試してみてください。そうすれば、きっと後悔なく毎日を生きることが出来ますよ。

Streszczenie (60-70 słów)

Przemowa dotyczy wydarzenia z czasów liceum, które wpłynęło na mój rozwój światopoglądowy i osobisty. Przez nietypowe objawy zdrowotne obawiałam się, że doznałam zawału serca. Czas oczekiwania na karetkę był wypełniony refleksją nad moim dotychczasowym życiem i żalem, że zmarnowałam dany mi czas na trywialne rzeczy. W efekcie doznanych przeżyć, postanowiłam żyć w taki sposób, by w momencie śmierci nie żałować niczego.